

氏名	櫻井育穂	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	小児看護学、思春期看護学				
学位	修士(看護学)				
学歴	1997年北里大学看護学部看護学科卒業、2007年北里大学大学院看護学研究科博士前期課程修了				
経歴	2013年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師				
所属学会(役職)	日本小児看護学会(診療報酬検討委員会委員)、日本小児がん看護学会、日本思春期学会、日本小児保健協会				

【2018年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	小児期発症慢性疾患をもつ患者のための成人移行支援コアガイド	共著	瑞穂印刷株式会社、全77ページ(担当部分4,19,43,44ページ)	慢性疾患を持つ患者のための成人移行支援コアガイド作成委員会(窪田満、加藤均、掛江直子、本田雅敬、 櫻井育穂 、他)	2018.4
2					
3					
(2) 論文					
1	長期入院中の子どものセルフケア・親のケア能力の獲得プロセスとそれに対する看護師の関わり	共著	埼玉県立大学保健医療福祉科学学会誌	櫻井育穂 、望月浩江、長谷美智子、添田啓子	2019.3
2					
3					
(3) 学会発表					
1	オレムセルフケア不足理論を取り入れた看護過程の検討～記録監査を用いた看護過程研修前後の看護師の認識変化～	共著	日本小児看護学会第28回学術集会、名古屋	○長場美紀、田村佳士枝、添田啓子、 櫻井育穂 他	2018.7
2					
3					
(4) その他					
1					
2					
3					
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別		研究期間	
1	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	「成人先天性心疾患患者と家族の移行期支援におけるアセスメントツール開発にむけた研究」(研究代表者)		2015.4～2019.3	
2	科学研究費助成事業 基盤研究(C)	「親のケア能力・子どものセルフケア能力獲得を支援する看護師の教育・指導力の促進」(研究代表者 添田啓子)(研究分担者)		2016.4～2019.3	
3	科学研究費助成事業 基盤研究(A)	「オレムのセルフケア理論を基盤とした『子どもセルフケア理論』の構築」(研究代表者 片田範子)(連携研究者)		2015.4～2019.3	
4	平成29年度厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業))	「小児期発症慢性疾患を持つ移行期患者が疾患の個別性を超えて成人診療へ移行するための診療体制の整備に向けた調査研究」班(研究代表者 窪田満)(研究分担者)		2017.4～2020.3	

3. 教育業績		
講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
(1) 講義		
1 小児看護学Ⅱ	2019.1	先天性心疾患をもつ子どもと家族への看護、および障害をもつ子どもと家族への看護について、理論やガイドライン、学術論文等を参考に講義を行い、看護国家試験における状況設定問題への対策として、上記疾患の病態生理・治療・看護について事例を用いた。
2 看護学入門	2018.4～7	看護学における学習の仕方や、他者とのコミュニケーションを学べるよう、ガイダンス、グループワークを行う。特定の課題に関するグループワークを行い、ディベートを実施し、成果物をオープンキャンパスで展示した。
3 卒業研究	2018.4～2019.1	4名担当。データ収集方法及び論文作成指導を実施し、成果を上げた。
4 小児健康生活論(大学院)	2018.5・6	4名受講。担当者として小児看護における家族の発達・理論等について、文献および研究等を用いて講義した。また、学生の実践事例をもとにディスカッションを行い理解を深めた。
(2) 演習		
1 小児看護学Ⅲ	2019.1～2	学内実習を伴うPBLチュートリアル学習方法を用い、学生が自主的に学習できるよう、科目責任者として円滑化を図り、且つチューターとしての役割を果たした。シミュレーションを通し、事例のイメージ化を図り、事例シートは実習等で活用できるよう、小児看護に特徴的な疾患3事例をより臨床に即したデータや病状を用い作成した。
2 子どもの保健	2018.4～6	講義形式による知識・役割理解を促し、その後演習を実施。演習シートを作成し、技術演習の方法に加え、ケアの根拠や臨床上的ポイントを記し学生の評価を得た。
3 小児看護学Ⅳ	2018.4、7、8	事例に即した、小児看護学特有の看護技術についてロールプレイ等を用いて指導し、実践における根拠を検討できるようファシリテートした。また、技術テストを実施することで安全への意識を高めた。
(3) 実習		
1 総合実習	2018.7～8	自分の課題や技術力と対峙し、課題を探求できるよう、ゼミを行い実習計画書を作成。その後3病棟(各病棟4～5名)で、実習を行った。実習中はカンファレンス・看護記録・個別面接を実施。また、安全・安楽に対象者へ看護介入できるよう担当教員への助言や臨床指導者と連携し、成果を上げた。さらには最終報告会を実施し、学生の小児看護に対する理解を深めることができた。
2 小児看護学実習	2018.8、10～12	1グループ2週間実習を4クール実施。子どもの権利を理解し、対象を理解し統合的に捉え看護の必要性和方向性を考え、実践・評価できるよう、1クール中にカンファレンス(毎日)・看護記録の助言(毎日)・個別面接(2回)実施。さらに、医師からの臨床講義を調整し、学生の疾患の理解を深めた。また、子どもの安全・安楽を守る事ができるよう臨床指導者との連携のもと付き添うことで、事故なく実習を終え成果を上げた。
3 IPW実習	2018.10	メイン科目責任者として円滑な実習運営のため、準備・オリエンテーションを実施し、学生及び担当教員のサポートを行った。また、施設担当者と連携し、演習が円滑に行えるよう助言し、実習中は学生の面談等を実施した。最終発表会では施設の指導者からも良い評価を得た。
(4) 論文指導		
1 修士課程	2018.4～2019.3	副指導:2名
2 修士課程	2019.2	副査:1名
3		
(5) その他		
1 FD研修会、教育フォーラムへの参加	2018.4～2019.3	学部前期後期、大学院前期後期のFD研修へ参加し、自己の教育能力の向上を図った。
2 学生への就職相談・調整	2018.4～2019.3	卒研・総合実習等を通して学生の就職相談や調整を実施した。
3 担任学生への進路相談・指導	2018.4～2019.3	担任学生への年会の面談と、個別学生への面談等を通して学生の進路相談や指導を実施した。
4 大学院生への実習相談・調整	2018.8～2019.3	CNS課程1名の小児実践看護実習Ⅲにおける施設との調整、および実習内容に関する助言、報告会への参加・助言。報告書資料作成への助言・相談等を行った。

5	卒業生への相談	2019.3	卒業生へのキャリア形成について相談および助言を行った。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会等の講師				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	オレムワークショップ(看護過程研修会)及びオレム推進連絡会	埼玉県立小児医療センター	看護過程研修会および事例検討会にて、オレム理論に基づく実践に関するファンリテート	2018.6～2019.2
2	こどもセルフケアカンファレンス(テーマセッション)	兵庫県立大学	小児看護学におけるセルフケア理論の構築にむけたテーマセッション	2019.7
3	診療報酬検討委員会によるテーマセッション	兵庫県立大学	平成30年度の診療報酬改定に関するテーマセッション	2019.7
3	小児看護人材養成事業	日本小児看護学会	人材養成に関する教育プログラムの作成	2018.4～2019.3
4	成人移行期支援フォローアップ講座	思春期看護研究会	成人移行期支援に関する講演会の企画・運営	2018.10
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称		任期
1	日本小児看護学会	診療報酬検討委員会		2017.8～2019.8
2	思春期看護研究会	事務局長		2013.4～現在
3				
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	夢ナビ	夢ナビ取材・ホームページ記事の作成		2018.12、2019.2
2				
3				
5. 学内運営(委員会委員)				
1	1年学生担任			
2	IPW実習(メイン科目責任者)			
3	看護学科 カリキュラム運営検討委員			
4	看護学科 総合実習			
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)				
	受賞名	主催		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の保有状況				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
	該当なし			